

静岡市における高等教育のあり方

一般社団法人 大学イノベーション研究所
所長 山内太地

1. 18歳人口の流出について

- ①静岡大学、静岡県立大学以外の国公立大学への流出
- ②地元私立大学以外の私立大学への流出
- ③専門学校、就職などによる流出 今回のテーマは①と②

2. 新設公立大の成功について

- ①国際教養大は、秋田県の税金で、東京に就職する全国各地の学生を育てている現実。
- ②会津大、公立はこだて未来大、高知工科大なども同様に東京に就職。
- ③地域の学生を集め、地域に就職させる。例・北九州市立大学。
- ④センター試験・分離分割（前期、後期）の入試に参加する限り、河合塾のバンザイシステムによって序列化され、不本意な位置にされる可能性がある。国際教養大のような独自入試は必須。
- ⑤18歳から22歳を囲い込むだけの箱物なら不要。

3. 必要なのは工学部

新しい産業と雇用を生み、高学歴の若者が静岡に残って働くには、静岡市にない工学部がまず必要。文系学部は工学部以降の第二期の構想として検討。ベンチャー精神のある若者を世界中から集め、静岡で起業してもらおう。授業は英語。教員の半数は外国人。1年生は全寮制。シンガポール工科デザイン大学を参考に、機械、電気電子情報、土木建築防災、応用化学・生命科学の4学科に。独立採算で収益を上げ黒字化を目指す。産業創出が使命。Uターンしたくなる雇用創出。静岡を日本のシリコンバレーに。人口100万人をめざす。